

松木日向緑地プログラム

竹林整備

連携団体

ひなた緑地遊学会

2021年11月20日（土）

報告

■ 竹林整備の意義について改めて学ぶ

11月20日（土）秋晴れの中、4回目の「松木日向緑地プログラム」を実施しました。今回は連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方々とともに、学生8名が竹の間伐に取り組みました。最初に、プログラムのアドバイザーでもある加藤先生から、竹の間伐をする目的や竹林整備方法の1つである「薬剤注入」について、実際に注入しながら説明いただきました。



▲ 薬剤を注入（加藤先生）

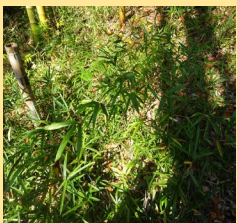


▲ 薬剤注入後、注入した箇所
にガムテープを貼る

薬剤注入は効率よく竹林整備に取り組む方法であること、注入した薬剤は、周りの他の植物や土壌には影響がないことなども教えていただきました。緑地をどのように活用したいのか、そして、どのように保全していきたいのかによって、間伐の方法も含め、取り組み方が変わってくることも教えていただきました。今回加藤先生は、プログラムで間伐に取り組むエリアとは異なるエリアで薬剤の注入に取り組むことを話され、そのエリアへ向かわれました。

■ いざ、実践！

加藤先生からの話を伺ったあと、3つのグループに分かれて間伐を開始しました。今回はかなり傾斜があるエリアでの活動だったので、足場に気をつけながら、声を掛けあい、協力しあって取り組みました。間伐した竹についても、なるべく枝も切ってきちんと重ねていかないと、せっかく伐採したにも関わらず、竹林整備したことにならないことも分かりました。



▲ 孟宗竹はすぐに生えて来ます



今回の活動場所

松木日向緑地 散策MAP



首都大学東京・東京都立大学 ひなたブック製作委員会『ひなたブック』, 2007より

最後に、ひなた緑地遊学会の北出さんが、松木日向緑地内の「ナラ枯れ」について説明して下さいました。

■ ナラ枯れの現状

直接の原因はカシノナガキイムシですが、新型コロナウイルスの影響等で緑地整備に携われない期間があったことも、ナラ枯れを見つけられなかった原因であるとのことでした。



学生は参加するごとに気づきがあり、学びが深まり、新たな課題や次回の目標を見出すことができています。今回は、足場の悪さもあって、コミュニケーションも大切にしていました。

■ 参加者の声

- ・チームメイトや周囲の人と声を掛け合って活動する事ができた。また、今日の活動では、竹林の整備方法には様々な種類があり、活動目的ごとに考えて、戦略をねり活動することが大切だと学んだ。
- ・怪我なく安全に作業できたと思う。ただし、枝切りが疎かになって、他人の安全まで配慮できていなかったことは反省点だと感じた。
- ・新しいメンバーとコミュニケーションが取れ、楽しく作業できた。
- ・足場が悪い中でも怪我無く終えることができた。一方で雑にやってしまったところがあった。何のためにやっているのか考えて次回以降の活動に臨みたい。